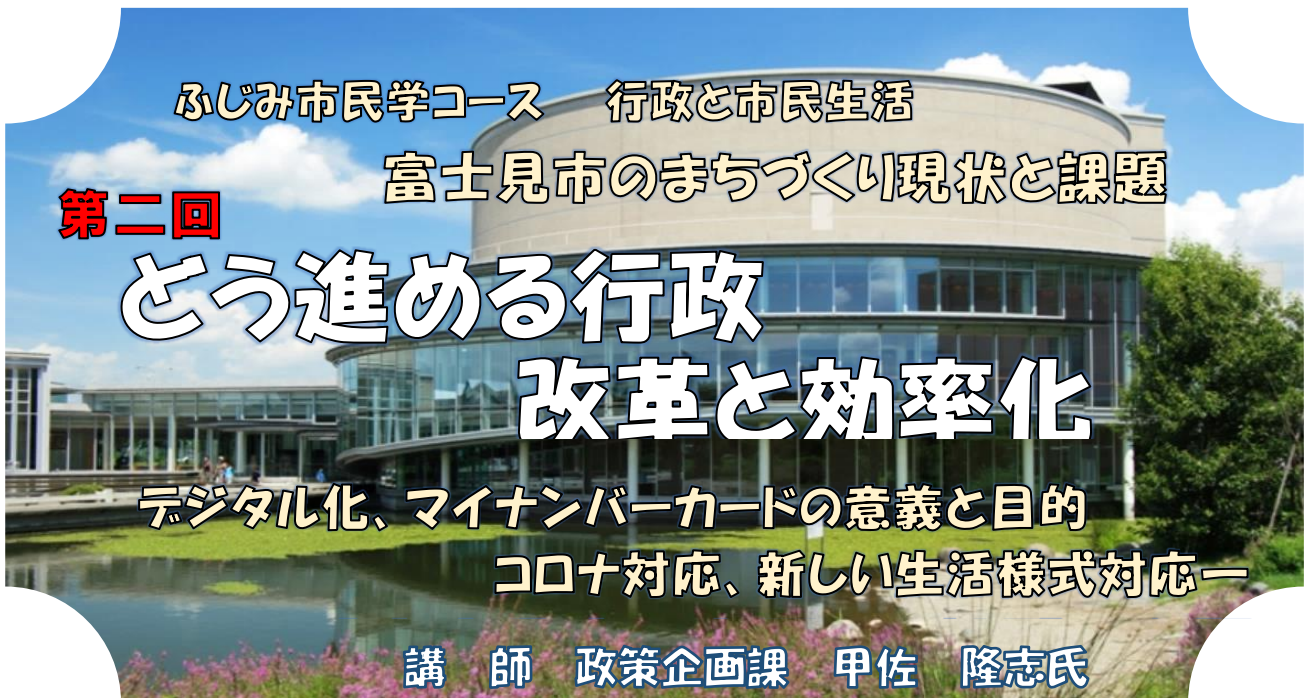




日 時 2022年10月1日（土）10:00～12:00
場 所 鶴瀬公民館 ホール
講 師 甲佐 隆志（政策企画課）
参加者 16人

第2回講座は、第一回市長講座に引き続き「富士見市の街づくり」の第2弾として、「どう進める行政改革と効率化」をテーマに 政策企画課 甲佐 隆志氏をお迎えして行なわれた。

当日の進行は

- 1 はじめに : 第7次行財政改革大綱について
- 2 行政運営 : 組織の見直しについて
- 3 ICT : 新しい社会に向けたDXの推進など
- 4 公共施設マネジメント : 今後の公共施設のあり方について



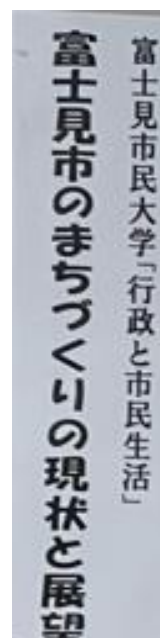
講師 甲佐 隆志 氏

行政改革といえば2000年代はパソコンの普及による業務の効率化、民主党時代の「業務仕分け」等思い出されるがその時々行政機関の組織や機能の改革を目指し実施されてきた。その目的は最小限の経費で最大の市民サービスを実施することにある。富士見市でも職員数についていえば、10年前750人いた職員数は令和4年には614人となっており2割程少なくなっている。

今回の講座は富士見市の行政改革をわかりやすく、第一回市長講座をどう実現するか、この

ためには市役所内でどんな事が行われているかの観点で説明なされた。

具体的講座の概要は



1. はじめに : 第7次行財政改革大綱について

総合計画：第6次基本構想（20年）⇒第一期基本計画（5年）
第7次行財政改革大綱（5年）

2. 行政運営

これまでの課題の克服やさらなる市民サービスの向上を目指し、組織を再編刷新

- ・危機管理課の創設
- ・経済環境部の創設
- ・シテイプロモーション課の新設
- ・こども未来応援センターの強化

3. ICT : 新しい社会に向けたDXの推進など

社会全体のデジタル化が進む中、ICTの積極的な活用により市民ニーズに応えられる利便性の高い行政サービスの提供を目指

- ・DX デジタルトランスフォーメーション
- ・身近なDX……ネットショッピング、テレワーク、デリバリーサービス等
- ・企業のDX……生産性、ビジネスモデル、働き方改革
- ・DXの推進 ……ナンバー（カード）について

4. 公共施設マネジメント : 今後の公共施設のあり方について

公共施設の老朽化が進む中、市民ニーズや財政状況等の社会情勢の変化に合わせ、安全な施設の持続的な提供と、公共施設の「質」と「量」の最適化

- ・市が保有する公共施設
- ・公共施設総合管理方針
- ・施設の品質 管理
 - ① 施設の品質管理
 - ② 長寿命化とコストの平準化
 - ③ 施設数の見直しと有効活用
- ・長寿命化とコストの平準化
- ・施設数の見直しと有効活用



アンケート集計結果

集計データ

講演会受講者数	15 人(参加者 16 人)
アンケート回収	6 人
回収率	40.0%

1. 講演会について

項 目	満足	普通	不満足	合計	満足度
内容について	5	1		6	83.3%
講師について	5	1	0	6	83.3%
スタッフの対応について	4	2	0	6	66.7%
合 計	14	4	0	18	77.8%
満足度	77.8%				

不満について 記載なし

来期以降の講座、講演会について、取り上げて欲しいテーマテーマや講師名などをご記入下さい

身近なことを知りたい

2. 本講演をどこでお知りになりましたか

① 市民大学からのお知らせ	5
② 市民大学 HP	0
③ 掲示板ポスター	1
④ お知り合いからのお誘い	0
⑤ 市広報	0
⑥ 公民館便り	0
⑦ その他	0
合計	6

3. 回答者の属性について

性 別

項 目	男性	女性	合計
性 別	0	6	6
割合 (%)	0%	100%	100%

年 齢

	5 0 歳以下	5 1 ～ 6 0 歳	6 1 ～ 7 0 歳	7 1 歳異常	合計
年 齢 (人)	0		1	5	6
割合 (%)	0%	0%	22.2%	77.7%	100%

お住まいの地域

鶴瀬地区 4 その他 諏訪 渡戸

4. 富士見市民大学全体に関する要望など御座いましたらご記入ください。

講座サマリー（パワーポイント）

1. おしながき



どう進める行政改革と効率化

市民大学
「富士見市の街づくりの現状と展望」
令和4年10月1日（土）
10:00~12:00

おしながき

- はじめに : 第7次行財政改革大綱について
- 行政運営 : 組織の見直しについて
- ICT : 新しい社会に向けたDXの推進など
- 公共施設マネジメント : 今後の公共施設のあり方について



はじめに

令和3年4月に第7次となる行財政改革大綱がスタートしました。その基本的な考え方について説明します。

「行革」とは

行財政改革は、20年後の理想の“未来”である「充実した日々」の実現に向け、諸施策を着実に遂行するための、下支えとなる行政内部の取組の方向性をまとめたもの。

総合計画

- 第6次基本構想 (20年)
- 第1期基本計画 (5年)
- 第7次行財政改革大綱 (5年)

①資源（ヒト・モノ（知識・技術）・カネ）の創造と活用
②より良い行政サービスの提供
③ムダの削減
令和3年4月スタート!!

2 行政運営 : 組織の見直しについて



行政運営

令和3年4月には、第6次基本構想のスタートに合わせ、組織を刷新しました。これまでの課題の克服やさらなる市民サービスの向上を目指したものです。

組織の見直し

令和3年4月から新たな組織体制をスタート。

1 部の再編成（市長部局）

これまでの組織	新しい組織
総務部	危機管理課
総合政策部	総務部
自治振興部	政策財務部
市民生活部	協働推進部
子ども未来部	市民部
健康福祉部	子ども未来部
まちづくり推進部	健康福祉部
建設部	経済環境部
	都市整備部
	建設部

8部（現行）⇒ 1課+9部制へ

組織の再編成①

危機管理課の創設

災害その他の危機管理にこれまで以上に迅速に対応するため、危機管理監を専属で配置し、危機管理課を市長直轄の部署として設置

これまで

市長 → 総務部長（危機管理監）

秘書広報課、総務課、職員課、安心安全課

これから

市長 → 危機管理監 → 危機管理課

総務部長

災害対応のみでなく、新型コロナウイルスを含めたあらゆる危機に対応

組織の再編成②

経済環境部の創設

市内経済の活性化を促進するため、経済に関する部署を独立させるとともに、環境施策を担う部署と合わせることで、経済と環境のバランスを保ちながら持続可能なまちづくりを推進

経済部門

産業振興課（農業含む）

環境部門

環境課

経済環境部

産業経済課、農業振興課、環境課

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

経済・環境・社会の3側面のバランスの取れた持続可能な市の形成

SDGs (持続可能な開発目標)



社会・経済・環境の3側面の統合的達成

SDGs (持続可能な開発目標)




FAIRTRADE

組織の再編成③

シティ°プロモーション課の新設

シティプロモーションを戦略的に進めるため、専門の課を新設
市への愛着醸成や市外に対し積極的なプロモーション活動により新たな人の流れをつくります。



プロモーション

- 市民の方に向けて (インナープロモーション)
 - 市の愛着醸成
- 市外の方に向けて (アウタープロモーション)
 - 市の認知度向上

住み続けたい 住んでみたい

移住・定住



3 ICT : 新しい社会に向けた DX の推進など

組織の再編成④

子ども未来応援センターの強化

「母子保健と児童虐待」の事務を、子ども未来応援センターに移管し、相談窓口や情報の一元化を図り、よりわかりやすい窓口としました。



これまで

- 健康増進センター
 - 妊産婦健診
 - 妊産婦と乳幼児の訪問指導
 - 母乳相談 など
- 子ども未来応援センター
 - 妊娠・出産・子育ての相談
 - 不妊治療等助成
 - 子どもの貧困対策 など

統合

子ども未来応援センター

妊娠、出産、子育て期まで子育てに関することをワンストップで対応

ICT



社会全体のデジタル化が進む中、ICTの積極的な活用により市民ニーズに応えられる利便性の高い行政サービスの提供を目指したものです。

DX

デジタルトランスフォーメーション

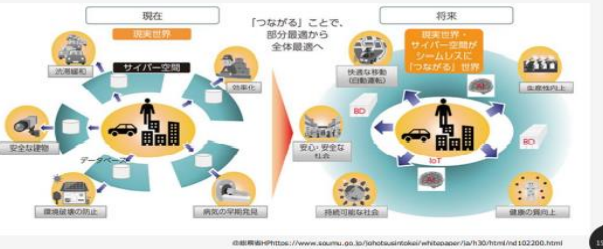
デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変化させること

現在

「つながる」ことで、部分最適から全体最適へ

将来

「つながる」ことで、部分最適から全体最適へ



身近なDX

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、私たちの生活の中に様々なDXが起り始めています。

- ネットショッピング
・いつでも、どこでも、短時間で
- テレワーク・リモートワーク（授業）
・場所に捕らわれない働き方
- フリマアプリの匿名配送
・個人間の取引が活性

amazon

デリバリーサービス
・売手と買手をつなぐ

サブスクリプション
・定額制での利用

シェアリング
・所有から利用へ

Uber Eats

amazon prime video

NETFLIX

シェアリング
・所有から利用へ

da

企業のDX

経済産業省の定義ではDXは企業がグローバル市場で勝ち抜くためには必要な事項な事項とされています。

- 労働生産性の向上
・自動化、省力化、迅速化
- ビジネスチャンス
・ビジネスモデルの変革
- 働き方の改革
・業務の効率化

DXの推進

市では、全国的な流れに沿い、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推し進めています。

DX推進計画

スマート自治体のへの転換

- 市民サービスの向上
行政手続のオンライン化
ICTを活用したまちづくり
- 地域社会のデジタル化
行政データの活用
地域社会のデジタル対策
- 行政運営の簡素化・効率化
情報システムの標準化・共通化
RPA/AIの活用
行政経営の効率化

来ない書かない待たせない

マイナンバーカードの普及促進

市の取組むDX

マイナンバーについて

マイナンバーはなぜ導入されたのでしょうか？

公平・公正な社会の実現

行政の効率化

国民の利便性の向上

出典：マイナンバーカード利用状況 地方公共団体情報システム機構

市の取組むDX

マイナンバーカードの取得状況について

ここ3年間で3倍にも普及していますが、全国・埼玉県内でも高い取得状況ではありません。

地域	取得率	順位
全国	45.9%	
埼玉県	44.3%	(47都道府県中28位)
富士見市	42.3%	(40市中27位)

交付総数

16,031

47,503

3年間で3倍に

市の取組むDX

マイナンバーカードについて

国は令和4年度末までにマイナンバーカードがほぼ全国民に行き渡ることを目指しています。

発行しない理由は？

- ・必要性を感じない
- ・安全性が不安（個人情報）
- ・手続きが面倒
- ・メリットを感じない

2022.3「保険マンモス株式会社」調べ

市の取組むDX

マイナンバーカードの普及

マイナンバーカードは、オンラインで確実に本人確認ができ、デジタル社会の基盤となるものであることから普及・足進に取り組みます。

メリット

- ①本人確認書類になる
- ②給付金の受け取りがスマートに
- ③コンビニで各種証明書類が取得できる
- ④各種行政手続がオンラインで可能に
- ⑤健康保険証としても使える。（将来は免許証とも一体化）

来ない書かない待たせない

マイナンバーカードの普及促進

4 公共施設マネジメント：今後の公共施設のあり方について

